



## 人権・男女共同参画セミナー

### 「災害時の子どもの居場所」＝「子どもにやさしい空間」

7月27日(火)古牧公民館で「人権・男女共同参画セミナー」が開催されました。昨年度に続くコロナ禍で集会室の人数制限があり12地区の区長と青少年育成部のみなさんのみ参加とし、男女比が偏らない配慮もありました。

今年度は、東洋大学大学院と上智大学の非常勤講師で「NPO法人災害時こどものところと居場所サポート」の小野道子代表に「災害時の子どもの居場所づくり」と題して講演いただきました。

これから長野市で想定される災害として地

震・水害・土砂災害がありますが、複合災害として新型コロナウイルスも大きな課題となります。

災害時の子どもの居場所＝「子どもにやさしい空間」は①安心・安全な環境②

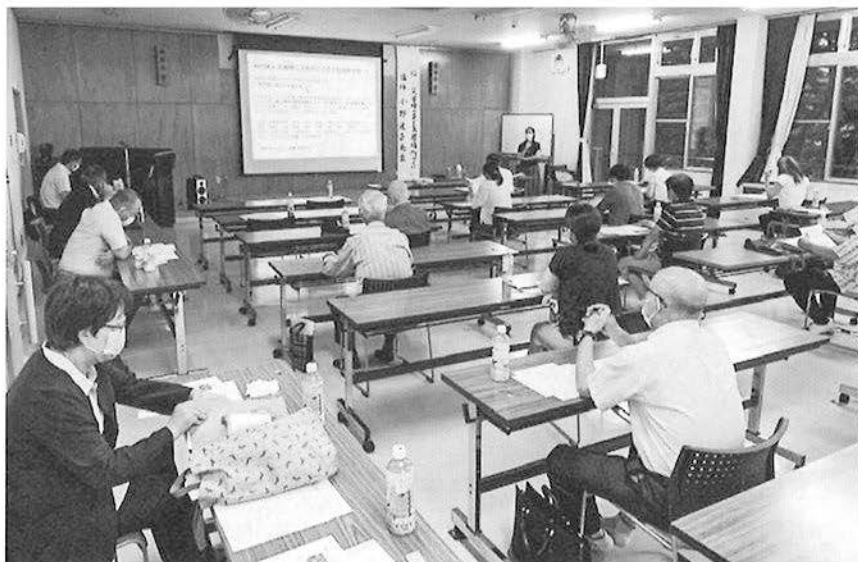


演題「災害時の子どもの居場所づくり」  
講師 小野道子先生

受け入れ・支える環境③地域の特性や文化、体制や対応力に基づく④みんなが参加し、ともに作りあげる⑤さまざまな領域の活動や支援を提供⑥誰にでも開かれている——の6つの大切なことを学びました。

緊急時の居場所はできるだけ早く設置することが重要ですが、平時からの居場所づくりが大切だと感じました。

(人権・男女参画部)



涼

## お年寄りのみなさんウチワをどうぞ 古牧小のみなさんからプレゼント

梅雨明けの7月20日(火)暑い中、大きな段ボールを抱えて古牧小学校の児童代表4名が360本のうちわを届けていただきました。

このうちわは、地域の高齢者のみなさんに暑い夏を快適に過ごしていただくため、毎年、

古牧小の児童が全校で製作しているものです。

この日は、古牧地区民生児童委員協議会の和田健夫会長と主任児童委員の井原きみ枝さんに代表して受け取っていただきました。

次頁につづく

### 前頁のつづき

児童代表は「地域の高齢者のみなさんでお使いください」とあいさつがあり、和田会長から児童に御礼の言葉とお手紙が送られました。

コロナ禍の中、児童のみなさんが貴重な授



業時間を使って製作していただいたうちわはどれも夏らしい絵が描かれている力作ばかり



でした。古牧地区の民生児童委員協議会の役員さんを通じ、古牧地区内にお住いのみなさんに届けていただきます。

地域の高齢者のみなさんには本当に心温まるプレゼントです。  
(事務局)

## 大地震！その時あなたは大丈夫？

～日頃から備えておく対策について～

7月17日(土)に自主防災連絡会の防災研修会が開催され30名が参加しました。講師は信州大学理学部原山智特任教授です。今回は地震について学習しました。

原山教授は「地震は2つのタイプがあります」と説明。プレート境界型と直下型です。プレート型は大型の地震で、広範囲で被害が出る特徴があり発生周期は100年前後とされています。南海トラフ地震が例で、いつ発生してもおかしくない切迫した状況にあると語りました。直下型はプレート型に比べて規模は小さく、震源近くで被害が出るのが特徴。発生周期は約1000年で、150年前の善光寺地震がこれにあたります。

地震災害への対策として原山教授は、事前の備えを教えとして宅地の地質について専門家から情報を集めておくことが大切と指摘し活断層、河川沿い、盛土、湿地帯など注意を払うべきポイントをあげました。



「地震が発生した時は冷静に行動してほしい」とし、揺れは長くても1から2分、パニックにおちいらないことと強調。まず自分と周囲の人の命を守ることを優先し冷静に行動しできるだけ火災防止と避難路の確保をと語りました。いきなり外へ飛び出すのはビルの窓ガラスが降ってきたりするので危険などのアドバイスもありました。

災害に備え、事前に家族で避難路や連絡方法などを確認して「マイタイムライン」を作成しましょう。  
(総務部)

## 子育て支援部研修会 読み聞かせ・手遊び・折り紙

7月7日(水)古牧公民館で第2回子育て支援部研修会が開かれました。子育て支援広場にいらした方達からのアンケートをもとに、これからの子育て支援活動をより充実して楽しんでいただけるかを話し合いました。

また英語教室Labopartyインストラクターで子育て支援部の飯森麻衣部長に絵本の読み聞かせ(どんな絵本がお勧めか)、歌を歌いながら楽しむ手遊び、季節に応じて折り紙・布等を使っての遊び方など実演していただきま



した。

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大は、人と人との接触を避けなければならないなど日常生活・子育て支援部の活動にも大きな制約を課せられてしまいました。

本年度になってもオリンピックの開催もあり、新型コロナウイルス変異株の広がりなど心配することが尽きません。各地区でご判断いただき、感染防止の対策を取りながら安心安全な子育て支援の活動が開催できましたら幸いです。(子育て支援部)

### 歴史探索

## ぐるりわがまち

北条区

### 北条区北部の道祖神と庚申塔

古牧郷土史研究会 傳田 隆治

古くから集落の出入り口には災害を防ぎ、悪霊・病魔から人々を守るため人々は道祖神や庚申塔などを置いた。北条でも北条北部を東西に流れる松林川に沿って今の北条集落の元となる集落(元村)がはじめにでき、その後集落の西と東の入り口に道祖神や庚申塔が置かれた。写真1は元村の西の入り口に置かれた安永5年(1776年)の自然石の庚申塔である。この庚申塔は以前、北条北部の春原様旧宅の西南の角にあったが、平成18年に北条西部の北条町宮崎様宅の南角へ移ったものである。写真2は元村の東の出入り口にあたる「おこしんどう」(お庚申塔から変化した?)に今も

りしないが古牧誌によれば嘉永6年(1853年)のもので祠部に二猿が、左・裏に文字らしきもの



写真2「東の入り口」

があるという。写真中央は嘉永6年(1853年)の自然石の道祖神である。写真の右端は自然石の庚申塔で「大正記念」(古牧誌によれば大正9年庚申の年、1920年)と記されている。

西の入り口の庚申塔ができた安永5年(1776年)は今から245年前の江戸時代中期の田沼時代で、近世では最大の飢饉と言われる天明の大飢饉(1782~1788年)が始まる6年前にあたる。また東の入り口の道祖神と庚申塔一基ができた嘉永6年(1853年)は今から158年前の幕末の黒船騒動のころで、日米和親条約締結(1854年)の1年前にあたる。「大正記念」は大正天皇への代替わりを記念したものであろうか。



写真1「西の入り口」

ある道祖神と庚申塔2基である。

写真左端は入母屋型の庚申塔で文字とか模様などは擦れてはつき

# 地区内で活動する団体を応援！

6月28日(月)に古牧公民館で古牧支所発「元気応援事業交付金」の対象団体の審査会が行われました。

この事業は、古牧のみなさんの活動が活発になり、地域がもっと元気になるようにと地域の団体が行う事業に支援金を交付しているものです。本年度も古牧地区内の各団体から防災の活動物品、地域の景観整備、福祉用品の整備などを行う事業に交付金の申請がありました。選考委員会で審査の結果、次の団体に交付されることになりました。(古牧支所)

申請団体	事業名
西尾張部区	災害時、防災訓練や公民館、区内イベントで使用 (ワンタッチ式テントの購入)
南高田老人クラブ 葉月会	清掃用具の整備 (充電式草刈り機の購入)
南長池みのり会	健康事業の推進 (スポーツ吹矢の購入)
北条区	景観整備事業 (草刈り機の購入)
東和田区	地域住民の福祉の充実と福祉推進整備事業 (トイレ用の肘掛け手すりの設置)
川端区	防災、福祉用品の整備 (ヘッドライトの購入)
西和田区	防災・減災活動の整備 (防災・減災活動用西和田区地図の作成)



## AIの進化と共存

AI(人工知能)が日々進化し多業種にわたって浸透していることは、素人の私にもよくわかる。最近のテレビや新聞等のコマーシャルを見てもAIという語を前面に押し出して盛んにアピールするものが目立ってきた。日常生活では一層の便利さ・快適さ・安全性が求められ、ビジネスでは一層の効率化・省力化が求められる現状を考えると自然の成り行きであろう。特に人と人との接触が制限された新型コロナの流行で、より拍車がかかった感じがする。

AIの恩恵に浴すること(平和的利用が大前提)を列挙すれば枚挙にいとまがない。今後も

期待は増すばかりだ。その一方で、進化と浸透を続けるAIに今まで人間がやってきた仕事(職種)がどんどん奪われてしまうのではないかと心配の声が多く聞かれることも事実である。確かに人間からAIに取って代わられてしまう仕事(職種)は少なからずあるだろう。かといって過度に心配していても仕方がない。数学者の新井紀子氏によると「今のAI技術は、万能ではなく限界や欠点もある」とのこと。こうしたことも踏まえた上で、私達はAIと共存していくための努力を怠ってはいけないのだ。

(滝沢 亨)

8月から9月までの主な行事実施日のお知らせ → 回覧等でお知らせします。



### 古牧地区の世帯数と人口

令和3年7月1日現在

11,714世帯

(男 13,161人)

26,671人

女 13,510人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会  
(電話 259-8359・FAX 219-1057)  
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 児嶋 孝
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR



HP  
ご覧ください